

発問づくりの工夫と評価

発問は、**人物の変容が見られるところ**や**主題に関わるところ**を問う。発問や補助発問、切り返しを重ねることで、ねらいに迫ることができる。そのためには、柔軟な切り返しをすることが大切である。

発問づくりの表『発問の種類と発問の具体』『自分事として考えることができるための発問づくりの視点』から選択したり、参考にしてアレンジしたりしながら、教材の内容やねらいに合わせて発問や補助発問を決定していく。特に、児童に気付かせたいことを絞った後、そのことに気付かせるための補助発問（複数用意する場合はほとんどである）が重要である。

また、評価についてもまとめ、指導者の授業の振り返りの観点を具体的に示して、次の授業づくりに生かした。

実際の授業においては、指導案で発問を準備していても、児童の発言内容により発問する必要がなくなるものもある。また、予想と異なり、議論に深まりが生まれない場合は、発問を変更していく必要がある。児童の発言内容により、その場で必要な補助発問（ゆさぶり、切り返し等）を出したり収めたり、「なるほど。もっとくわしく教えて。」と発言をさらに促したりすることが大切だと考えている。

発問づくりの表

発問の種類と発問の具体

☆アレンジ☆

	類型	発問例	
「生き方」を問う	心情を問う	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇は、～した時、どのようなことを思ったか。 この場面での〇〇は、どんな気持ちだったか。 〇〇は、心の中で、何と話しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ～している〇〇の心の中はどんな感じか。
	行為を問う	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇が～した（言った）のは、なぜだと思うか。 〇〇が、～した（言った）ことをどう思うか。 〇〇が～した（言った）のは、正しい判断と言えるのか。 〇〇は、この場面で、どう行動すべき（だった）か。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇はどんなことを考えながら～して（言っ）ているのか。 どんな考え（気持ち）からそうした（言った）のか。 〇〇は、これからどうすればよいと思うか。
	子ども自身を問う	<ul style="list-style-type: none"> 自分が～の立場だったら、どうしていたか。 自分が～の立場なら、何と言うか。 自分がその立場なら、どのように思うか。 	
	道徳的価値を問う	<ul style="list-style-type: none"> 本当の友情とは、どのような関係だろう。 どんな時でも、～（親切に）しないといけないのか。 どうすれば、～（広い心がもてるの）だろうか。 	
	教材を問う	<ul style="list-style-type: none"> この話から、どんなことが大切だと感じたか。 〇〇の生き方から、どんなことを感じたか。 この話のどこが問題だと思うか。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇からどんなことを考えたり学んだりしたか。

- じゃあ～についてはどう？
- これについてはどうしたらよい？

- こういう別の考えもあるよ。
- だったら、どうする？

- 何か気が付いたことはない？
- 何か関係ありそうだけど。

具体的にもっと考えさせたいとき

- それは、どういうこと？
- 別な言い方で・・・
- もっとくわしく・・・
- 例をあげて・・・

- なぜそう思うのか。
- 自分はどちらの考えか。

問う話の内容を	あらすじの順序を問う
	出来事を問う
	台詞や名前を問う



自分ごととして考えることができるための(補助)発問づくりの視点



視点	目的	発問例
立場の入れ替え	別の視点から考えさせる	<ul style="list-style-type: none"> • 周りの人はどう思っているのだろう。 • 反対の立場だったらどうなるのだろう。
比較思考	複数のものを比較させる	<ul style="list-style-type: none"> • AとBのどちらの気持ちが強いだろうか。 • AとBはどんな違いがありますか。
範例的思考	主人公の行為や考えを手本や範例とさせる	<ul style="list-style-type: none"> • ○○のよかったところはどんなところだろう。 • どうしてこんなことができたのだろう。
批判的思考	主人公の行為や考えを批評させる	<ul style="list-style-type: none"> • また～かも知れないのに、なぜそう言ったのかな。 • 嫌なら手伝わなかったらよかったのに、なぜ～。 • 怒られたのになぜ言い返さないのかな。 • ～なぜこのようなことになってしまったのか。
条件の変換	話の内容を意図的に変える	<ul style="list-style-type: none"> • もし、「○○」が～しなかったら、○○はどんな思いだったのだろうか。

補助発問が一目で分かるようにふきだしで明記

段階	学習活動	発問・主発問・補助発問と児童の心の動き	T1	T2	指導上の留意点(・) 評価(★) 評価方法【】
導入	1. アンケートから、「長所と短所」について考える。	<p>○アンケート結果を見てどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分のよいところだけでなく短所も知っている人が多い。 • 自分のいいところをたくさん知っている。 • みんな、「短所を改善したい」と思っていた。 <p>○「個性」って何だろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分の特徴。長所も短所もあわせて個性。 	発問・音読	板書・発問	<ul style="list-style-type: none"> • アンケートの結果から、自分の考えを自由に話させる。
	<p>(課題)：「個性を伸ばすために大切なこと」は何だろう。</p>	<p>○愛菜さんと奈々子さんの二人はどんな子でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 愛菜さんは時間やまわりを守る子。 • まじめな子(しっかりしている、きちんとしている)。 • 口調がきびしすぎる。言い方がきつい。 • 奈々子さんは明るくてみんなを盛り上げる人気者。 • 時間にいいかげん。(ちょっと適当。) <p>○何が変わったね。</p> <ul style="list-style-type: none"> • チームの雰囲気。 • 愛菜さん。 • 奈々子さん。 <p>中心発問：愛菜さんが変わったのはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 雰囲気を悪くさせてしまったことを悪いと思ったから。 • 奈々子さんが時間を守っていた姿から、自分も変わらなくてはいけないと思ったから。 • みんなの心が一つになったと思ったから。 	P152L8まで	板書まで	<ul style="list-style-type: none"> ※動画「高速縄跳び八の字」を視聴しながら。 • 愛菜と奈々子の長所や短所を教材から読み取り、自分とはどちらに近いかを考えさせ、登場人物と自分を重ねさせる。(板書)
	2. 「めぎせ百八十回」を読み、「二人」の言動について考える。	<p>「愛菜、なんだか変わったね」って書かれていたね。</p>			<ul style="list-style-type: none"> • ワークシート。 • 多面的に考えさせる。 • 自分の短所や相手の長所に目を向けることよさに気付かせる。

<p>展開</p>	<p>変わったのは愛菜さんだけだろうか？</p> <p>愛菜さんの何が変わったのだろうか？</p> <p>変えたいと思ってもなかなか変えられないこともあるよね。</p> <p>3. 「短所を改め長所を伸ばすために大切にすることは何かを考える。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二人が変わったから、みんなの気持ちが前向きになってる。」 ・奈々子さんの姿を見て自己を振り返ることができたから。(きびしすぎた)。」 ・奈々子さんも変わっていた(変わろうとしていた)から。」 <p>○愛菜さんは間違っていたのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛菜さんは正しいけど、少し変えたほうがいいところがあった。(全部を変えたわけではない)。」 ・今のままじゃあ、みんなついてこれない。」 ・大切なことは言うけど、伝え方も大切だと気付いた。」 ・短所を変えることで、もっと成長できる。」 <p>自問自答:「これから自分の個性を伸ばしていくために、何を大切にしていきたいですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちのよさを見付ける。」 ・友だちのよさを手本にすること。」 ・短所に気付き直そうとすること。」 ・自己の言動を振り返ること。」 	<p>↓</p> <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・変えるべきもの(短所)と、変えなくてもよいもの(長所)があることに気付かせる。」 ・ワークシート」 ★誰にでも長所と短所があり、相手のよさを自分の成長につなげられることに共感しているか。」 【態度・発言・振り返り】」
<p>終末</p>	<p>4. 指導者の説話を聞く。」</p>	<p>振り返り」</p>	<p>↓</p> <p>↓</p> <p>祝辞等</p>	<p>※「OOの木」に名前を付ける。」</p>